



バアバちゃんの子育て考

吉田緑こども園
理事長 長谷川智子

いろいろな食感を体験させましょう

かむ力がつくと、さまざまなものが食べられるようになります。しかし「かむ力を育てること」は「かたいものを食べさせること」ではありません。かたいものだけでなく、弾力のあるもの、かみ切りにくいもの、粘りのあるものなど、いろいろな食感の食べ物を体験させましょう。

いろいろなものを食べているうちに、少しずつかむ力が育っていきます。



6月は食育月間

健康な心と体を育てるためには、食育を通して望ましい食習慣を身につけることが大切です。和やかな雰囲気の中で、周りのおとなや友達と食べる楽しさを味わったり、さまざまな食べ物への興味や関心を持ったりすることで、食の大切さを知り、自ら食べようとする気持ちが育ちます。

はじめた季節 食中毒を予防しましょう

気温と湿度が高くなると、細菌による食中毒が増えます。予防するためには、原因となる細菌を「つけない」(手を洗うなど)、「増やさない」(低温で保存するなど)、「やっつける」(中心部までしっかり加熱するなど)が大切です。

特に子どもは、食中毒になると症状が重くなりやすいので、肉や魚の生焼けや、食品の保存には十分な注意が必要です。



“6月”いよいよ梅雨の時期。じめじめいや～なイメージがします。

でもどうしてどうして、子どもにとっては楽しい雨。水たまりを「ピチャ、ピチャ」これって楽しいんです。かたつむりを見つけるのも。いろいろな経験が子どもの思考力をつけ、自主性を促し将来の牧野博士かも知れません。子どもの遊びは、学びなのです。

いけない子、悪い子って決めつけないで、愛しいまなざしを向けてみると、子どもってすばらしい力を秘めた、たくましい存在です。

私の尊敬する渡辺和子さんも、“自分の知らない相手の世界を許すあたたかい心があれば良い人間関係を築ける”とおっしゃっています。

親子や兄弟、夫婦、親友であっても、全てを知り尽くすって無理ですよネ。だからこそ互いに許し合うあたたかい心が必要なのでしょう。

そして子どもにさまざまな種をまくためには、親自身もいろいろな事に興味を持っておくといいですよ。

いくつになっても好奇心の塊でいましょう。それが親の条件の一つかも知れません。バアバも今、昔々を思い出してピアノのレッスンを始めました。子ども達曰く「ばあちゃん、そんなに下手だったん」4~50年ぶりに弾いたピアノの音色は腹立たしくなる程下手でした。それでも折れずに頑張ってみます。84歳の挑戦！

